

# 東京都立上水高等学校 SDGs × 国際理解

# 朝日新聞

2026年(令和8年)

3月25日  
水曜日

記念版

発行元

〒104-8011

東京都中央区築地5-3-2

朝日新聞東京本社

メディア事業本部

TEL03-5540-7761

実施校

東京都立上水高等学校

〒208-0013

東京都武蔵村山市大南4

-62-1

TEL042-590-4580

## 地域から国際社会へ 21期の探究

### 朝日新聞社の取り組み

朝日新聞社は、貧困や教育、気候変動など世界が直面する様々な課題を2030年までに解決することを目指すSDGs（持続可能な開発目標）に賛同し、2017年1月から、キャスターの国谷裕子さんをナビゲーター役に迎え、大型企画「2030 SDGs 変える」など紙面やデジタルでSDGsに関する報道を強化しています。

04年には日本メディアとして初めて「国連グローバル・コンパクト」に参加。18年には国連が先進的にSDGsに取り組む世界のメディアと交わす協力枠組み「SDGメディア・コンパクト」の創設メンバーにもなりました。今後もSDGs実現を目指し、報道や企業活動に力を入れていきます。



世界の多くの国があり、文化や言葉、考え方が異なる。お互いの違いを知り、認め合うことが国際理解への第一歩である。



探究の授業だけではなく、行事などを通して国際理解について学んだ。



上水高等学校21期生の「探究」では、各クラス1名ずつの班をつくり、40の異なる国を担当して特徴や良さ、さらには課題について探究活動を行っている。SDGsに示された17の目標とも照らし合わせながら、一人ひとりが自ら課題を発見し、主体的に社会と関わり合う姿勢を大切に行っている。新聞記事の作成にあたっては、限られた文字数の中で的確に伝えたいことを表現する方法も学んだ。

21期生の「探究」は、自分を知り、考えを他者に伝えることからスタートした。1年次では、15年後の自分像を見つけての活動を行った。自らが選択を繰り返しながら将来どのような仕事に就いているか、考えられる性格をどのように乗り越えるかというのを想像し、スライドを作成してクラスで発表を行った。また、本校の柱の一つでもある国際理解を進めるためにはまず自国の文化を知る必要があることから、歌舞伎座に足を運び本場の歌舞伎を鑑賞し、深い歴史の中で発展してきた独自の表現方法に心を動かされた。日本の伝統文化について興味が増した生徒が多かったようだ。さらに、メキシコからの学生が来校。折り紙、書道、けん玉など、日本を代表する文化を橋渡しとして、おもてなしの精神をもって言語の違う学生と交流したことは、コミュニケーション能力を身につける上でも良い経験であった。

2年次ではいよいよ、海外修学旅行で台湾へ。海外を訪れるのは、上水高校としても初めてのことである。地下鉄の改札内では一切飲食禁止、トイレ、トイレットペーパーは流せないなどを文化の違いに最初は戸惑いながらも、英語や身振り手振りを交えたコミュニケーションによって現地の方々と交流を深めることができ、充実した4日間を過ごした。

帰国後は、まずは「地域探検」と題して身近な地域に目を向けて課題を挙げ、クラスごとに発表を。そこから今度は世界の国々に向けて、国際社会における立ち位置や各国の現状を踏まえながらその特徴や良さ、課題についてまとめている。国が変われば、文化も生き方も変わる。多様性の広がるグローバルな視点をもって、これからの社会を生き抜いてほしい。

## 国際理解教育とSDGs 本校の取り組み

校長 鈴木信也

生きる高校生に求められている。

この考えに沿って本校では、海外修学旅行、スピーチ・レシテーションコンテスト、実用英語技能検定受験、生徒や教員の海外派遣、留学生との本校での交流、JETによるイングリッシュ・ラウンジ等の取組みを大切にしながら、各教科・科目でも国際理解教育を図る授業展開を実施している。これらの取組みを通じて、グローバルな思考力やSDGsの精神が生徒全員に身につくことを期待する。

高校生の国際理解教育は、異なる文化や価値観を尊重し、多様性を受け入れる姿勢を育てるうえで重要である。急速に進むグローバル社会の中で、国境を越えた交流や協力が不可欠であり、外国語の習得だけでなく、歴史や宗教、社会問題への理解を深めることが求められる。また、海外の出来事を自分の生活と結び付けて考える力を養うことで、主体的に世界と関わる態度が育つ。一方で、国際理解教育は単に外国について学ぶだけではない。例えば、SDGsを通して地球規模の課題を自分事として捉え、主体的に考え行動する姿勢は、これからの時代を

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

